地域医療最前線

ヘリコバクター・ピロリ感染症

院長
櫻井 宏一

ヘリコバクター・ピロリ（以下ピロリ菌）は、胃に感染することで様々な病気を引き起こすことが分かっており、近年メディアでもよく取り上げられています。我が国は他の国に比べて、40歳以上のピロリ菌感染率が高く、60歳以上では約80％が感染しているとの報告もあります。今回の地域医療最前線では、積極的にピロリ菌の検査・除菌に取り組んでいる服部胃腸科（熊本市中央区新町2丁目）の櫻井宏一院長にピロリ菌の感染症について説明してもらいました。

ピロリ菌は、胃粘膜表層に生息するらせん状の細菌です。一般的には、胃の免疫力が成立していない幼少時期に感染し、一度感染すると除菌しない限り、ほぼ生涯にわたって胃の中に住みつくことが分かっています。

ピロリ菌は、胃粘膜に感染することで胃粘膜に炎症を引き起こし、胃炎を生じさせます。そして持続的な炎症が続くため、その結果として萎縮性胃炎や消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）などの病気を引き起こします。それ以外にも胃ＭＡＬＴリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、胃がん、鉄欠乏性貧血などの病気と関係があることが知られています。

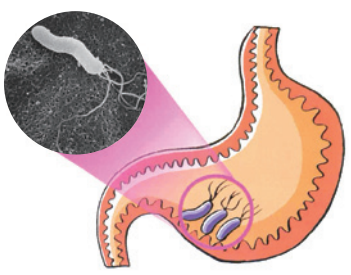
感染胃炎が保険適応に

日本におけるピロリ除菌療法の保険適用上の対象疾患は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃ＭＡＬＴリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃がんに対する内視鏡的治療後胃に限られていましたが、このほどヘリコバクター・ピロリ感染胃炎についても保険適応になりました。

除菌療法は3種類の薬を1日2回、1週間服用してもらいます。抗菌薬2種類と胃酸分泌用製剤1種類です。服薬終了後1ヵ月以上（当院では正確な診断を行うため2ヵ月後）経ってから除菌判定を行っています。成功率は平均して80％～90％と言われています。ピロリ菌を除菌することで、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の再発が抑制されます。

また、胃の粘膜の炎症が改善することで、胃がんになるリスクも低くなりますが、完全に抑えられるわけではないので定期的な内視鏡検査を受けることが大切です。

ただし、患者様の年齢、症状、胃の粘膜の状態によっては除菌が必要でない場合もありますので、主治医の先生とよく相談されることが大事です。



▲ピロリ菌は胃の粘膜に生息し、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの原因に

服部胃腸科

ピロリ菌の専門ドックを開設

ひょっとしたら自分もピロリ菌に感染しているのではないだろうか？そう心配されている方も多いことでしょう。そこで当院では、外来での検査要望が多かったピロリ菌の検査を専門に行なう「ピロリドック」を開設しています。

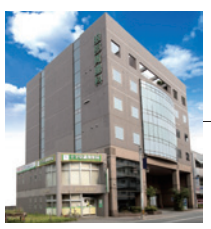
検査は「尿素呼気試験法」を用い、待ち時間が少なく検査できるように、朝8時30分から5階健康管理センターで実施しています。尿素呼気試験法は、尿素を含んだ検査薬を内服し、服用前後で呼気に含まれる二酸化炭素の量を比較しピロリ菌の有無を検査する方法で、苦痛を伴わず、結果説明まで約1時間で終了します。

ピロリドック

◆**検査内容:** 尿素呼気試験
◆**料　　金:** ¥6,000
（ピロリ菌が陽性となった場合、希望の方は別途、除菌治療代等が必要）

▲検査薬と呼気を調べる検査キット

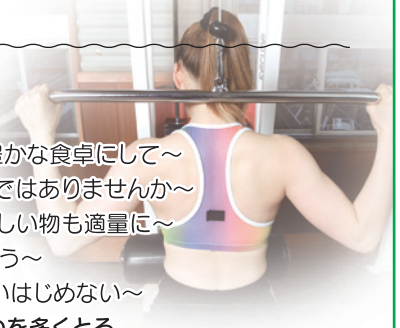
▲二酸化炭素の量を調べる機器



医療法人　社団　魁正会
服部胃腸科
〒860-0004 熊本市中央区新町2-12-35 ☎096-325-2300
人間ドック お申し込み・お問い合せ 0120-79-1800
FAX096-325-8845　http://hattori-clinic.com

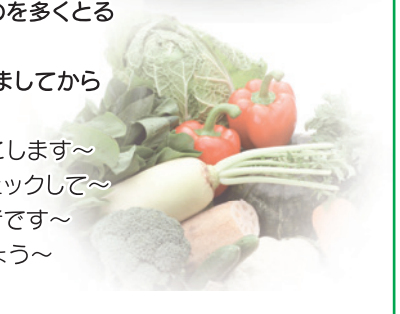
がん予防は生活習慣の改善から

がん予防で重要なのは、①食生活②生活習慣③運動です。国立がんセンターは、この3つについて、『がんを防ぐための12ヵ条』を発表しており、これを積極的に実行すれば、がんの約60％（禁煙や食生活の工夫などでさらに30％）が防げるだろうとしています。



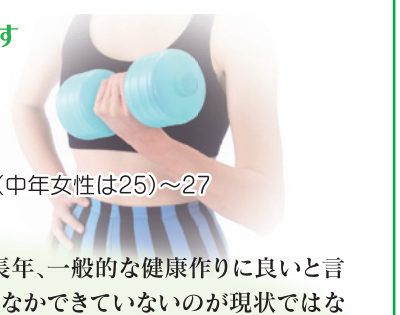
《がんを防ぐための12ヵ条》

- **バランスのとれた栄養をとる**　～いろどり豊かな食卓にして～
- **毎日、変化のある食生活を**　～ワンパターンではありませんか～
- **食べ過ぎをさけ、脂肪はひかえめに**　～おいしい物も適量に～
- **お酒はほどほどに**　～健康的に楽しみましょう～
- **たばこは吸わないように**　～特に、新しく吸いはじめない～
- **食べものから適量のビタミンと繊維質のものを多くとる**
  ～緑黄色野菜をたっぷりと～
- **塩辛いものは少なめに、あまり熱いものはさましてから**
  ～胃や食道をいたわって～
- **焦げた部分はさける**　～突然変異をひきおこします～
- **かびの生えたものに注意**　～食べる前にチェックして～
- **日光に当たりすぎない**　～太陽はいたずら者です～
- **適度にスポーツをする**　～いい汗、流しましょう～
- **体を清潔に**　～さわやかな気分～



★さらに、次の3点もがん予防には必要です

- **十分な休養**
- **ストレスを溜めこまない**
- **太り過ぎ、痩せ過ぎにならない**
  BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))が21(中年女性は25)～27



ご覧の通り、これらは目新しいものではなく、長年、一般的な健康作りに良いと言われてきたものばかりです。しかし、実際はなかなかできていないのが現状ではないでしょうか。12ヵ条は、がんになる確率を下げるばかりでなく、ほかの生活習慣病をも寄せつけない、より健康な体作りに役立ちます。これをきっかけに、日ごろの生活を総点検し、12ヵ条を少しずつでも取り入れてみてはいかがでしょうか。

医療ニュース in KUMAMOTO

熊本市内の医療機関の情報を紹介します。

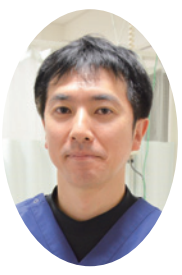
病院を建て替え、院名変更

松本外科内科医院

熊本市中央区新市街の松本外科医院（松本孝嗣院長）は、同院を建て替え、院名を「松本外科内科医院」に変更した。

建て替えた新医院は鉄骨造り2階建て。松本院長は「『まちの救急室』をコンセプトに、内科、外科に関係なく、病気やケガなどで困った際に受診しやすい診療所にしたい」と話している。診療科目は外科、内科、胃腸科、整形外科。

▲建て替えを行い「松本外科内科医院」に院名変更した同院



松本 孝嗣
院長

病院西側に診察室などを増築

魚住クリニック

熊本市中央区出水7丁目の魚住クリニック（魚住秀昭院長）は、同院西側に診察室や超音波検査室などの新病棟を増築した。

増築した建物は鉄骨造り2階建て。診察室、問診室、超音波検査室、図書室、講義室（約30人収容）などで構成されている。同クリニックの診療科目は放射線科（がん検診）、ＰＥＴ検査に特化している。

▲増築した新病棟（写真左側２階建て部分）

魚住 秀昭
院長